

「管路更生大学」公開デモ施工見学報告

機関誌編集室

10月31日（火）、日本大学生産工学部津田沼キャンパス39号館北側広場にて「管路更生大学」のデモ施工が開催されました。

この「管路更生大学」は、社会のニーズに合った下水道技術者の育成を目的として、日本大学生産工学部土木工学科が東京都下水道サービス(株)と(一社)日本管路更生工法品質確保協会に呼びかけ、3者間で協力協定を結び開催している講義となります。管路更生工法の基礎知識を学ぶ3回の座学とデモ施工から成っており、2017年度から始まって今回で7回目の開催となりました。

「管路更生大学」は同大学の地域貢献活動の一環としてデモ施工見学を自治体にも門戸を開いており、本学の学生や教員の方々のほか、自治体の職員の方々も参加していました。

「バルテム技術協会」「EX・ダンビー協会」の2つの協会のデモ施工を、2グループずつに分かれて、それぞれの工法の見学を順番に行いました。

バルテム技術協会の工法のデモでは製管工法であるバルテム・フローリング工法の鋼製リングを組み立てる様子などを見学しました。既設の管きょ内で組み

立てた鋼製リングに高密度ポリエチレン製のかん合部材と表面部材を組み付け、既設管きょと表面部材との間に充填材を注入することにより、既設管きょを更生する製管工法です。「優れた耐久性」や「あらゆる断面形状に対応」するなどの特長があります。実際に組み立てられた鋼製リングを潜り抜ける体験や矩形管きょの模擬施工サンプルなどの展示もあり、学生たちは興味深く説明を聞いていました。

EX・ダンビー協会ではEX工法とダンビー工法についての説明がありました。本管および取付管の改築および修繕を行う形成工法であるEX工法は「施工後の品質の安定」や「耐震性に優れている」「曲がり部や段差部がスムーズに仕上がる」などの特長があるようです。また製管工法のダンビー工法は既設管きょの「長寿命化」や頻発する大規模地震に対する「耐震化」を図るため、既設管内に既設管きょを形成し、複合管を構築する工法で、「長距離施工が可能」「施工条件に対する適応性が優れているなど」の特長を強調していました。デモ施工や「EXパイプ拡径デモ装置」などを中心に施工に関する展示も多く、非常に興味深く見学をする学生の姿が印象的でした。



写真-1 バルテム技術協会での見学の様子



写真-2 EX・ダンビー協会での見学の様子